



東京大学高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS
(旧 活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム GLAFS)

2024年度シラバス集



2024 年度開講科目一覧

2023 年度カリキュラム一覧									
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当教員名	曜日	時限(開始・終了)	必修 選択必修	開講日・ 講義室名・その他特記事項	
講義(必修:2 単位)									
3799-461	高齢社会通論 1	1	A1	飯島	水	5 限 16:50-18:35	必修	10/16~12/4 オンライン (初回はハイブリッド)	
3799-462	高齢社会通論 2	1	S2	大月	水	5 限 16:50-18:35	必修	6/5~7/17 オンライン	
演習(必修:1 単位)									
3799-463	高齢社会演習	1	通年	各教員	—	集中	選択必修	開催日、開催場所は各プログラム担当教員が指示	WINGS-GLAFS 生はこの単位を履修
3799-234	高齢社会総合研究学実習 I	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	実習・演習 X はリーディング大学院履修生のみ
3799-235	高齢社会総合研究学実習 II	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-236	高齢社会総合研究学実習 III	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-237	高齢社会総合研究学実習 IV	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-238	高齢社会総合研究学実習 V	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-239	高齢社会総合研究学実習 VI	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-240	高齢社会総合研究学実習 VII	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-241	高齢社会総合研究学実習 VIII	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-259	高齢社会総合研究学演習 X	1	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
講義(選択必修: 4 単位以上)									
●各参画専攻から提供された高齢社会横断科目群(別表)の中から選択して合計 4 単位以上を履修する									
●以下は IOG 提供の高齢社会横断科目群を示す(リーディング大学院履修生で特論未履修の者は下記を履修する)									
3799-225	高齢社会総合研究学特論IV 産学官民連携で作り上げる 高齢者の健康と地域のあり方	2	A2	飯島 孫	水	5 限-6 限 16:50-20:30	選択必修	12/11~1/22 オンライン (一部ハイブリッドの回あり)	
3799-226	高齢社会総合研究学特論V 地域農業マネジメント	2	A2	八木	火 金	5 限 16:50-18:35	選択必修	(週 2 回) オンライン	
3799-227	高齢社会総合研究学特論VI 高齢者法	2	A1A2	樋口	木	3 限 13:00-14:45	選択必修	オンデマンド (一部オンラインの回あり)	
3799-231	高齢社会総合研究学特論X ジェロントテクノロジー	2	A1A2	二瓶 檜山	木	5 限-6 限 16:50-20:30	選択必修	オンライン	

1.授業概要

わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、今から8年後の2030年には65歳以上の高齢者が人口の約1/3を占め、75歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約1/5を占める超高齢社会が到来する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて2040年には高齢者人口が1/3を超え、中国でも2060年には高齢者人口が約1/3に達することが予測されている。こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした社会システムを組み替える必要性が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリ・デザインする取り組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。

本講義シリーズではこれらの課題に対して、主として高齢者の体と心について、国内のトップ講師からの講義を受け、老いつき合うとはどういうことであるのか、その基礎を分野横断的に学ぶことが狙いである。本講義を通じて、高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促すことによって高齢者が快活に暮らし、社会の支え手となって活躍する活力ある超高齢社会について考えていく。

2. 授業内容

- ・学期 秋学期(A1)
- ・単位 1単位
- ・時限 水曜5限(16:50~18:35)
- ・評価 出席状況及び学期末のレポート提出
- ・教員 飯島 勝矢(高齢社会総合研究機構(IOG)機構長、未来ビジョン研究センター教授)
- ・教室 オンライン

3.授業日程

10/16	第1回	ジェロントロジー総論:老いつきあう(飯島勝矢 IOG・未来ビジョン研究センター)
10/23	第2回	高齢期の社会関係とwell-being(菅原育子 武蔵野大学)
10/30	第3回	老化と生物学 疾病・障害とヘルスプロモーション(孫輔卿 IOG・未来ビジョン研究センター)
11/6	第4回	SDGsと教育—生涯学習時代における「学び」のあり方—(北村友人 教育学研究科)
11/13	第5回	転倒・リハビリテーションの支援(田中敏明先生 IOG)
11/20	第6回	人間・生活支援とテクノロジー(二瓶美里 情報理工学研究科)
11/27	第7回	都市・農村の高齢者と農業のリアリティ(八木洋憲 農学生命科学研究科)
12/4	第8回	人生の最終段階のケア(山本則子 医学系研究科)

4.その他

講義の順番や内容については変更する可能性がある。

1. 授業概要

わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、今から8年後の2030年には65歳以上の高齢者が人口の約1/3を占め、75歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約1/5を占める超高齢社会が到来する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて2040年には高齢者人口が1/3を超え、中国でも2060年には高齢者人口が約1/3に達することが予測されている。こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした社会システムを組み替える必要性が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリ・デザインする取り組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。

本講義シリーズではこれらの課題に対して、主として高齢者を支える社会環境について、建築・都市計画・社会科学・教育学などの観点から総合的に学ぶことを目的としている。本講義を通じて、高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促すことによって高齢者が快活に暮らし、社会の支え手となって活躍する活力ある超高齢社会について考えていく。

2. 授業内容

- ・学期 夏学期(S2)
- ・単位 1単位
- ・時限 水曜5限(16:50~18:35)
- ・評価 毎回レポート提出(毎回一週間後締切)(ITC-LMSで対応)
- ・教員 大月 敏雄
- ・教室 Zoomにて開講(履修希望者はUTAS、ITC-LMS参照)

3. 授業日程(講義日程・講義タイトルは変更可能性あり)

第1回 6月5日(水)

超高齢社会における住まいと地域／大月敏雄(東京大学・工学系研究科)

第2回 6月12日(水)

超高齢社会を地域で支える-IOGモデルのまちづくりとは／辻哲夫(東京大学・高齢社会総合研究機構)

第3回 6月19日(水)

超高齢社会における地域への介入／李ヨンゲン(東京大学・工学系研究科)

第4回 6月26日(水)

Geron-Informatics／檜山敦(東京大学・先端科学技術研究センター)

第5回 7月3日(水)

超高齢社会のハウジング-社会学の観点から／祐成保志(東京大学・人文社会系研究科)

第6回 7月10日(水)

超高齢社会と成年後見制度／税所真也(東京大学・人文社会系研究科)

第7回 7月17日(水)

超高齢社会における外出環境／松田雄二(東京大学・工学系研究科)

4. その他

1. 授業概要

本講義では高齢化が進むなか、人生100年時代を生き抜く人生を送るために、より早期の健康維持～フレイル(虚弱)予防から、要介護状態になっても住み慣れた地域で住み続けられる地域基盤づくりまでの超高齢社会・地域の課題や動向を最近の知見とともに学ぶ。また、多様な高齢者の特性や生活パターン(生活様式)、地域の人的・環境的資源の利活用方法などを「産学官民連携を基盤とする課題解決型実証研究(アクションリサーチ)」から学び、高齢者のフレイル予防・健康維持やそれを支える環境づくりを自助・共助・互助・公助の観点から考える。

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 水曜 5・6限(16:50～20:30)
- ・評価 出席日数及び課題レポートの内容により総合的に評価するが、出席を重視する。
- ・教員 飯島勝矢(高齢社会総合研究機構(IOG)機構長、未来ビジョン研究センター教授)
孫輔卿(高齢社会総合研究機構、未来ビジョン研究センター特任准教授)
- ・教室 オンライン(9, 11, 12回はハイブリッド)

3. 授業日程

- 12/11 第1回【産学官民連携1】高齢者の健康と地域のあり方:(飯島勝矢/未来ビジョン研究センター)
第2回【学1】地域でのフレイル予防活動:最新動向:(孫輔卿/未来ビジョン研究センター)
- 12/18 第3回【学2】地域でのフレイル予防活動:最新動向:(田中友規/工学系研究科)
第4回【学3】生涯現役・生涯教育(高齢者就労含):最新動向:
(コスタンティニーニ・ヒロコ/未来ビジョン研究センター)
- 12/25 第5回【官1】地域で取り組む高齢者の健康・その環境づくり:(高知県仁淀川町)
第6回【産1】フレイル予防における産学連携(食):(イオン・キューピー、高齢社会総合研究機構)
- 1/8 第7回【官2】地域で取り組む高齢者の健康・その環境づくり:(東京都西東京市・文京区の行政)
第8回【産2】フレイル予防における産学連携(口腔):(サンスター・ロッテ、高齢社会総合研究機構)
- 1/15 第9回【高齢者健康】自分たちの力で元気なまちを創る:
(東京都西東京市・文京区の住民フレイルサポーターとともに)
第10回【高齢者健康:認知症】認知症に優しい街づくり:(五十嵐 歩 医学系研究科)
- 1/22 第11回【産学官民連携:討論会】それぞれの立場から考える幸福感向上の次世代まちづくり
第12回 総まとめ、総合討論:(飯島勝矢/未来ビジョン研究センター)

4. その他

講義の順番や内容については変更する可能性がある。

1. 授業概要

この講義では、農業がおこなわれている地域に注目し、地域の実態に即して実践的に問題解決をはかるために必要な知識および手法を身につける。すなわち、人口減少・高齢化社会の中で、地域農業をいかにしてマネジメント(計画、経営、戦略策定)するかについて学ぶ。各講義は、都市農業、中山間地域農業といった「地域」別に構成される。そして、それぞれの地域において、1) 土地利用や最適配置の理論的枠組み、関連諸分野における研究および議論の所在、2) 行政、流通機構、農業経営に関する背景および制度、3) ヒアリングや統計、GIS(地理情報システム)を用いた実態分析の具体的な方法について、順を追って学ぶ。すなわち、理論、社会的背景と制度、分析方法の3側面から地域農業の実態を捉える。以上を通じて、農業・農村に関する「現場感覚」と「分析力」とを磨き、地域農業を題材として、さまざまな問題解決に役立てられる人材となってもらいたい。

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A2, 週2回)
- ・単位 2単位
- ・時限 火曜5限, 金曜5限(16:50-18:35)
- ・評価 出席票と試験
- ・教員 八木 洋憲(大学院農学生命科学研究科)
- ・教室 オンライン(または、農学部1号館10番講義室, ハイブリッドを予定) 詳細はシラバス(UTAS)を確認のこと。

3. 授業日程(過年度実績)

※順序は入れ替わることがある。スケジュール・休講は授業内で連絡する。

- 第1回 (1) ガイダンス・地域の捉え方
- 第2回 (2) 農業立地論
- 第3回 (3) 都市の農地制度と農家の対応
- 第4回 (4) 都市農業経営の経営戦略
- 第5回 (5) 都市農業経営の経営分析
- 第6回 (6) 中山間地域の制度と農家の対応
- 第7回 (7) 農地の生産性の把握
- 第8回 (8) 農地保全の可能性の評価
- 第9回 (9) 農業法人・組織の分析
- 第10回 (10) 水田経営における規模・組織・農地集積
- 第11回 (11) 農業経営の情報管理と組織 (進捗により実施)
- 第12回 (12) 海外の地域農業(イギリス) (進捗により実施)
- 第13回 (13) 海外の地域農業(アメリカ) (進捗により実施)

4. その他

1.授業概要

高齢者に関わる法制度や政策課題について基礎を学ぶとともに、高齢者法の観点について、講義およびディスカッションを行う。オンデマンド方式なのでいつでも視聴可能。確認問題に答えながら履修してください。

※2回はオンライン講義予定

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A1 A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 自由な時間で視聴(※オンライン講義の回は木曜日 3限 13:00 - 14:45)
- ・評価 レポートによる
- ・教員 樋口範雄
- ・教室 オンデマンド・オンライン Zoom

3.授業日程

オンデマンド方式

※ただし10/3(木)、12/19(木)3限はオンライン講義の予定です。

(日程は変更になることもありますので、最新情報は開講前にUTAS等で確認してください)

- 第1回 高齢者法の概要と倫理的配慮
- 第2回 JR 東海事件 認知症の老人が加害者？
- 第3回 医療1
- 第4回 医療2
- 第5回 介護 ドーナツ事件
- 第6回 在宅医療と成年後見制度
- 第7回 住まい
- 第8回 住み続ける リバース・モーゲージ
- 第9回 年金など経済的基盤
- 第10回 相続1
- 第11回 相続2と信託
- 第12回 高齢者虐待1
- 第13回 高齢者虐待2とデジタル遺産

4.その他

- ・講義の順番や内容については変更する可能性があります。
- ・何か質問等あれば toku6@glafs.u-tokyo.ac.jp に連絡してください。

1. 授業概要

ジェロンテクノロジー(Gerontechnology)とは、高齢者を支援するためのシステムを扱う研究分野である。本科目では、高齢者の生活や社会活動などを支援するための情報・機械システムについて、オムニバス形式(一部対談)で講義を行う。本講義の内容は次の通りである。

- ・低下した運動器・感覚器の機能補助を行うための運動支援・認知機能支援システム
- ・高齢者就労など社会的課題に対応するための仕組みとシステム
- ・日進月歩での発展が著しい情報機器を用いた支援手法と、それら機器の使用の支援手法

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A1 A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 木曜 5・6 限(16:50-20:30)
- ・評価 出席とレポート
- ・教員 二瓶美里(情報理工学系研究科・教授)、檜山敦(先端科学技術研究センター・特任教授)
- ・教室 オンライン

3. 授業日程

講義順序, 講師は入れ替わることがある

講義日程(予定)

- 第1回 5限 ガイダンス
6限 臨床現場におけるリハビリ工学の実際
西下智(リハビリテーション科学総合研究所研究員)吉田直樹(岡山医療専門職大学 教授)
- 第2回 5限 高齢者の農作業のための軽労化支援スーツ
田中孝之(北海道大学 情報科学研究科 教授)
6限 高齢者支援技術における国内外の動向・当事者との技術開発
井上剛伸(国立研究機関)
- 第3回 5限 医療・介護・看護・健康分野で期待されるサービスロボティクス
浅間一(東京大学 大学院工学系研究科 教授)
6限 認知症高齢者の情報支援
二瓶美里(情報理工学系研究科 教授) 山内閑子(産業技術総合研究所 主任研究員)
- 第4回 5限 パーソナルデータエコシステムと総合生活支援
橋田浩一(東京大学 情報理工教授)
6限 高齢者の見守り・モニタリング技術
森武俊(東京理科大学先進工学部/日本医療研究開発機構(AMED))
- 第5回 5限 高齢者の社会参加と就労を活性化するICT
檜山敦(先端科学技術研究センター・特任教授)
6限 次世代リハビリテーション技術
宮崎敦子(東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)
地域リハビリテーションとテクノロジー
小野敬済(東京大学大学院新領域創成科学研究科特任研究員)
- 第6回 5限 アクセシブルデザイン for 高齢・共生社会
星川安之(共用品推進機構専務理事)
6限 高齢者に寄り添うロボット
青木俊介(ユカイ工学 CEO)○ロボティクスとリハビリテーション
- 第7回 5限 高齢社会のモビリティ構築に向けて
城代志野(WHILL 株式会社 プロダクトマネジメント室執行役員室長)
6限 ICTで広がるシニアの未来
若宮正子(最高齢プログラマー)○ICTとリハビリテーション
- 第8回 5限 予備
6限 予備

1. 授業概要

具体の特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される社会接続力修得のための、必修の演習である。

フレイル予防研究(老年医学)、ジェロテック研究(機械情報系工学)、ハビタット研究(建設系工学)等の領域含め、IOG 関係教員が携わっている幅広い実践領域、複合領域におけるフィールドの中で設定する具体の課題解決現場のリアリティを体験的に学ぶことを目的とする。

専門家である担当者が、履修者の専門領域の個別性、所属研究室の研究スタイルを尊重しながら、履修者に伴走し、ジェロントロジーに関わる他分野の専門領域の研究・実践に関わる方法論を伝授する。主担当はプログラム担当教員が務めるが、IOG 組織から特任研究員、ジェロネット、自治体派遣研究員、外国からの研究者、GLAFS のアルムナイ等々を積極的にインボルブし、複数の実習を履修することを通して、マルチスケールの生活場面への研究成果の社会接続の技量を体験的に学ぶ。集中講義形式で、選択肢の高いカリキュラムとする。

実習プログラムは、各学期始まりのガイダンスで示すほか、随時ホームページにおいて提示されるので、その中から選択的に履修する。

2. 授業内容

- ・学期 集中
- ・単位 1 単位 (実習は 2 単位) (1 単位は 13 時間分の演習を標準とする)
- ・時限 集中
- ・評価 演習における活動
- ・教員 各プログラム担当教員
- ・教室 各スタジオ担当教員の指示による

3. 授業日程

各スタジオ担当教員の指示による

4. その他